

～表紙絵の植物紹介～

【ラン】「ラン」はその多くが美しく、独特の形の花を咲かせます。世界には約15,000種、日本には約230種もあります。欧米ではより美しいものを求めて多くの交配種が作られ、それらを「洋ラン」と呼んでいます。中国や日本では古くから何種かのランを珍重する伝統があり、それらは「東洋ラン」と呼ばれています。東洋ランは交配をほとんど行わず、野生のものを珍重する傾向が強いです。そのため、野生ランの乱獲が進み、世界中で問題となっています。自然に生えるきれいな花をいつまでも大切にしたいですね。



(文:梁河)

◆◆◆スタッフからの一言◆◆◆

●交流の家に勤め始めて3年目となり、教員生活から離れてしばらく経ちました。学校では学習指導要領の改訂に向け準備を進めているようです。交流の家でもここでのプログラムと教科の関連性について検討中です。交流の家だからこその体験がたくさんあります。今後さらに学校との連携が必要になってくると感じています。(田野崎)

●この季節、枯れた藪の中に烏瓜のオレンジ色の実がたくさんぶら下がっているのが見えます。烏瓜は、夏にとってもきれいな花が咲きますが、日が暮れてから開花して夜明けに閉じてしまうのであまり目にとまりません。実のいっぱいあるあたりを覚えておいて、来年の夏に見にいってみてはいかがでしょうか。(未成年の方は必ず大人の方といっしょに！)(手島)

●4月から交流の家に異動になり、約8カ月が経過しました。以前の勤務先は交流の家と同じ前橋市だったのですが、交流の家は自然環境が豊かなことに驚かされています。通勤途中でキジやシカを目撃することもあります。夜景を見ながらの帰宅は格別なのですが、たまに雪が道路に残るようになったので車の運転は慎重に行っています。(池守)

●新学習指導要領の実施も間近になってきました。文部科学省の、『小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業等』のなかで『青少年の国際交流における英語を活用する機会の提供』を推進しております。交流の家でも、宿泊施設でできる英語教育に特化した先進的なイングリッシュ・キャンプを来年度より本格的に実施していきたいと思っております。(阿左見)

交流の家の取組紹介

【アクティブラーニング】



アクティブラーニングとは「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」(文部科学省の用語解説より)で、学校の授業に取り入れる動きが進んでいます。交流の家での例として、以下のものがあります。

①あかぎアドベンチャープログラム

あかぎアドベンチャープログラム(AAP)はアメリカ発祥の体験学習法のメソッドを取り入れた問題解決学習です。10数名のチームを1人ずつ講師が担当し、少人数での課題解決活動を経て、チーム全体で力を合わせて取り組まないと解決できない活動を行います。体と頭をつかって楽しみながら、自分自身や他者への関わり方に気づき、学ぶことができます。これにより、参加者自身が主体的・対話的で深い学びを行う機会を提供することができます。

②野外炊事

野外炊事で先生や大人がやり方を全て教えてしまったり、準備を全て行ってしまうと、子供達は作業のようにこなすだけとなりがちです。例えば、火をおこす場面で、あえて薪の組み方を教えず、火がつくために必要な要素をヒントとして出し、それをもとに班ごとに工夫して薪を組み、試行錯誤させる。そして、班ごとの工夫を発表し合う。指導する際に「失敗しないように」や「効率よく」となりがちですが、主体的・対話的で深い学びのチャンスとしてとらえると、より効果的な野外炊事が行えます。(文:田村)

重要なお知らせ

日頃からカラゴロリをご愛読いただきまして誠にありがとうございます。次回カラゴロリ春号vol.38から、ホームページを中心に掲載することとなりました。これまで通り郵送をご希望の方は下記アドレスまでお名前・住所をお送りください。(E-mail:akagi@niye.go.jp)また、近隣の施設には配架をさせていただく予定です。お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



←QRコードからもご覧いただけます。

次号は、4月1日発行予定!

体験の風をおこそう

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中



国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



一生に出会う
人の数は
ほんのひとひら
でも
せめて出会った人
は
良関係で
いたいね

風のおと

『あれから47年』

新年明けましておめでとうございます。

赤城南麓はすでに何回か雪が降り、例年より寒い冬を感じております。私の正月といえば、例年通りの駅伝観戦正月を過ごして、仕事始めを迎えました。

昨年、還暦を迎えたことで、あちこちで同窓会などの集まりがあり“あれから40年”いや、それ以上の昔話が弾みました。

赤城青少年交流の家も今年で開所47年目を迎えます。当時は富士見村で、村議会の満場一致でこの施設の誘致が承認されたとのこと。

”あれから40年”を経て、9年前に前橋市に合併されました。地元直接的な利益のない当施設を受け入れて下さった前橋市そして群馬県に対し、どんなご恩返しのできたのか、またできているのかを、設立50年を迎えるにあたり検証する時期に来ています。

今年もよろしく願いいたします。

所長 杉浦 俊之

幼児事業「親子で大運動会」

10月21日(土)～22日(日)に「親子で大運動会」～三つ子の魂百まで!!この時期の活動は大事!!～を8組26名で開催しました。この事業は幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を取り入れた活動を実践することで、幼稚園、保育園、家庭等においてその活動が日常に取り入れられるようにするとともに、幼児期における体験活動の重要性を広く周知することを目的としています。



尻尾を追う表情は真剣です。

36の基本的な動きとは大きく3つに分けることができ、「たつ、起きる、まわるなど体のバランスをとる動き」や「滑る、とぶ、歩く、走るなど体を移動する動き」、「もつ、支える、運ぶ、取るなど物を操作する動き」です。運動会では、定番の玉入れや尻尾とりゲーム、リレーなど5種目の競技を行い大いに盛り上がりしました。その後、国内でも珍しい、塩分やカルシウムを豊富に含んでいる泉質の富士見温泉に行きました。夜景を見ながら汗を流し、親子の絆が深まりました。

夜には、前橋市読み聞かせグループ連絡協議会による絵本の読み聞かせが行われました。自分達と同じように温泉に入る物語や眠たくなるような物語のおかげで子供たちはぐっすりと眠ることができたようです。



色の元となるのは、ガラスを粉末にしたもの。慎重にのせていきます。

翌日の七宝焼きでは、自分の好きな色と模様を付けてデザインを考えました。大人も子供も世界でたった一つだけのペンダントやキーホルダーを作って嬉しそうでした。

(文：丸山)



ふじみフレンドシップキャンプ

11月10日(金)～12日(日)でふじみフレンドシップキャンプが開催されました。このキャンプは、前橋市教育委員会(富士見公民館)が主催、交流の家が共催、ふじみVYS、前橋市赤城少年自然の家等、多くの方の協力のもと運営され、富士見中学校に進学する小学生を対象に実施しています。自然の中でのびのびと育ち、中学校に進学後も他の小学校の子供たちと充実した学校生活を送ってほしいという思いから実施されています。

今回は、富士見地区4つの小学校4～6年生、合計40名の参加者が集まりました。1日目は、アイスブレイクをし、班で目標を決めました。2日目は、アドベンチャーラリー、鶴山ハイキング等を行いました。班ごとに課題を解決していくことで結束力が高まっているようでした。また、ふじみの偉人ものがたりを地元の方に話して頂き、富士見の魅力を感じることができました。夜は、満点の星空の下でキャンプファイヤーをしました。「今日から友達、明日も友達、ずっと友達さ」と歌って踊り、肩を寄せ合いながらマッシュマロを焼いて食べました。3日目は、皆でピザとポトフを作り、とても美味しく出来上がりました。



キャンプファイヤーの炎で心も体もほかほかです。



みんなで作った焼きたてのピザは最高に美味しく出来上がりました。

子供たちからは、「話したことの無い」という声がありました。

キャンプに参加したことが、子供たちにとって少しでも役立つことをスタッフ一同願っています。

(文：渡邊)



木のペンダント、繭玉クラブ作り等が体験できました。

交流の家では体験活動の普及ため、地域のイベントに「お届け隊」としてよく出展しています。このような体験活動は県内の青少年教育施設・団体でも行っています。

自然の中での遊びや、地域の中での社会体験など、子供の頃の様々な体験が、人生の基盤となり、大人になった時の意欲やコミュニケーション力の差となって表れることが明らかになってきました。そのため、国立青少年教育振興機構では「体験の風をおこそう」運動を推進しています。群馬県でも県内の青少年教育施設・団体で「群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会」をつくり、その主催で11月25日にけやきウォーク前橋で「体験の風をおこそうフェスティバル2017」を開催しました。



ガチャピン・ムックと歌のお姉さんと楽しく踊りました。

全体で2,553名の参加者が見え、各ブースとも人の途切れる時間がなく賑わっていました。イベントの途中で、体験の風をおこそう運動応援団のガチャピン・ムック&歌のお姉さんも応援に駆け付け、ステージショーで会場を盛り上げました。

自分で作った作品を大事そうに持ったり、保護者の方が写真を撮ったりしていました。また、中には「こうした活動をさせてもらうにはどうしたらいいか」という問い合わせもあり、体験活動への関心を高めることができました。(文：池守)

【あかぎアドベンチャープログラム(AAP)】

「あかぎアドベンチャープログラム、何をするか知っている人?」の問いかけでAAPの活動はスタートします。HPを見たり、兄弟から聞いて、「壁登るんでしょ?」と答えが返ってくることもあります。見当すらついていない参加者がほとんどです。

「エレメントや小道具を使ったアクティビティー」「普段はやらないチャレンジをする」といった説明をするのですが、体験をベースにした活動であることから、言葉や文字ではAAPの魅力が伝えることができません。何よりも「体験すること」をお勧めします。

AAPは、小中高生のクラスづくりやスポーツチームのチームビルディング、企業・行政の新人研修、地域の活動、教員研修などに活用されています。交流の家は、室内施設も充実しているため、雨天時や寒い時期にも活動することができますよ。

今回は、AAP研修指導員の佐藤順子講師にご紹介いただきました。「それぞれが自分や仲間の良さに気付くこと」を大切にしているファシリテーターです。



赤城山ツーリズム 第8回

「地域の特徴活かしたものづくり」
粕川なっとう株式会社 上州農産 松村 徳崇さん

赤城南麓の粕川町で大豆づくりから製造、販売している「粕川なっとう」。粕川は水はけが良い土地で昔から大豆栽培が盛んな地域。丹精込めて育てた大豆を使い、深蒸し製法で大豆本来のもっちりとした柔らかい食感を残したなっとうを作っています。

大豆の栽培は盛んでも納豆を作っている方がいない中で新規参入で始めた納豆製造。今では、地域の特徴を最大限に活かしたものづくりができていること、子どもの頃から過ごしてきた大好きな粕川の地で新たなチャレンジに挑み続けられていることを嬉しく思っています。

粕川なっとうは、100%粕川の大豆を使い、あえて商品名にも地名を入れるなど、自社商品を使った赤城南麓のPRにも力を入れています。伝統に縛られることなく、今までの赤城南麓のイメージをガラッと変えるような自分の年代だからこそできる商品開発をこれからも行なっていきます。



これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください
⇒TEL:027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)。ホームページにも随時掲載します。

■親子キャンプ 気分は忍者!
1月20日(土)～21日(日)1泊2日

遊んで身に付く36の動きをテーマにした親子キャンプです。

10月21日～22日に実施した幼児キャンプの第2弾です。第1弾が好評だったため、追加での開催になります。今回はうどん打ちや正月遊び、餅つきを行います。

■自然体験フォーラム
2月10日(土)～11日(日)1泊2日

今年のテーマは「～つながる、広げる～」です。親子対象のワークショップや自然体験活動をしている人、はじめようとしている人も楽しめる多種多様なワークショップをラインナップしております。自然体験に関わる人たちの顔が見える関係づくりを目指します。

■スポーツ交流デー(ラグビー)
3月17日(土)～18日(日)1泊2日

初参加チーム歓迎です。ワイルドナイツスポーツプロモーション所属の元全日本選手がラグビーの指導をします。他チームとの混合で試合を行い、様々なメンバーと交流することができます。

料金変更のお知らせ

平成30年10月1日より講師室等の名称・料金を変更する予定です。

従来の講師室→ゲストルームに名称変更
1人1泊1,200円(料金変更なし)

ボランティア棟→ゲストハウスに名称変更
1人1泊800円

特別講師棟 →1人1泊1,600円

※ゲストルーム及びゲストハウスは、従来通り引率者専用です。
※特別講師棟は、外部講師等の利用に加えて、支援を要する児童・生徒等の利用も可能となる予定です。

平成30年4月に正式決定する予定です。(文：田村)